

Title	活動報告
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	Newsletter Vol.1, (2007. 9) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000001-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

活動報告

開催日	研究・運営プログラム名	会議等の名称
7月20日	研究発信支援プログラム	大学院生のための英語によるプレゼンテーション演習
7月25日	哲学・文化人類学班	文化医療臨床人類学の新展開 精神医学の歴史研究：精神医療のローカルな実践と変容の医学誌史・社会的検討を通して
7月26日	国際教育研究プログラム	第108回バイオサイコシンポジウム
7月29日	哲学・文化人類学班	文化医療臨床人類学の新展開 人類の論理・感性 / 精神研究の融合領域におけるその位置：アラン・ヤング教授を迎えて「PTSD」、「論理と感性 / 社会的脳」、「先端医療と文化」を考える
8月1-2日	国際教育研究プログラム	Keio-Cambridge Joint Seminar
8月18日	脳と進化班	Avian Social Cognition: Do Birds Think about their Minds?
9月15-16日	関連学会（後援）	第4回子ども学会議（日本子ども学会 学術集会）「子ども・進化・脳科学」

哲学・文化人類学班 講演会 文化医療臨床人類学の新展開 - 精神医学の歴史研究(7月25日開催)

7月25日、<文化医療臨床人類学の新展開>シリーズの一環として、講師に鈴木晃仁慶應義塾大学経済学部教授(医学史研究)を迎え、Hysterics and Degenerates, Japanese Style: Doctors and Patients in a Private Psychiatric Hospital in Modernist Tokyoの演題にて講演会を開催した。演者は、精神医療のローカルな実践と変容の医学誌史・社会的検討を通しての精神医学史研究の例として、1920 - 30年代の日本の精神医療の一面と新興中流家庭での世代葛藤とが交差する様相について、王子脳病院の同時期のカルテ資料を用いた分析を示し、指定討論者 Allan Young 氏(McGill

University、慶應義塾大学社会学研究科特別招聘教授)を中心に、活発な議論が行われた。

普遍性志向のもとで日本で普及した西洋精神医学が、実際には、地域的文化社会的制度的要因との相互作用によって屈折変容したかたちで使用される様相が日本の事例を通して、あきらかにされたが、今後さらに展開されるべき細かい方法論的課題、西洋でも同じ問題が文脈によってみられる点などが討論され、論理 / 感性の文化的規定要因に関する研究枠組作成の際に示唆となる論点が示された。(宮坂敬造)

哲学・文化人類学班 シンポジウム 文化医療臨床人類学の新展開 アラン・ヤング教授を迎えて(7月29日開催)



7月29日(日)、10:00 ~ 18:00 東館 GSEC-LABOにおいて、<文化医療臨床人類学の新展開 人類の論理・感性 / 精神研究の融合領域におけるその位置 アラン・ヤング教授を迎えて「PTSD」、「社会的脳」、「先端医療と文化」を考える /

A New Horizon in Culture, Medical, and Clinical Anthropology Exploring New Research Areas of Human Logic, Sensibility, Reason and Emotion: PTSD, the Social Brain and New Medical Technologies Drawing upon Allan Young's Work in Medical Anthropology >を開催した。マッギル大学医療人類学教授アラン・ヤング先生は、2007年7月14日 ~ 8月9日の日程で、慶應義塾大学社会学研究科招聘教授として来日されたが、同大学院の教育プログラム強化のために、大学院講義をお願いするかたわら、同上研究セミナー学会(グローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」および慶應義塾大学社会学研究科研究資金による)のための、基調講演オリジナル論文「Changing Perspectives on Mind, Brain, and Empathy: Implications for Understanding the Intersection of Reason and Emotion.」を用意して下さった。基調講演では、近年の社会脳研究

枠組みにふれ、その発展は機能性MRIによる脳機能画像解析技術の進展と密接に係るものの、19世紀後半の神経学者 Hughlings Jackson のモデルの再発見ともいえる点などが指摘され、心と脳モデルに関し理性と感情の交差点をどうとらえるかには歴史的枠組み変遷の検討がまず必要である点が指摘された。この研究セミナー学会は同教授に代表される文化医療人類学の広がりそのものをまず再把握し、その背後の共通潜在テーマを理解することが目標であったが、前半部のワークショップでは、「Putting Disease on the Body? Pharmaceutical Practices of Diabetes Care in Japan (Mohacci Gergely) 同コメント(浜雄亮) 日本の幹細胞研究と再生医療の現状(八代嘉美)、総合コメント(波平恵美子)、後半部の研究セミナーでは、ヤング教授の同上基調講演ほか、Trauma, Narrative, and 'Fonction Fabulatrice' of Janet(江口重幸)、The Pervasiveness of the Concept "Trauma" in Japan, 1980-2000(佐藤雅浩)、Social and Communication Development in Autism Spectrum Disorders(直井望)、Neuroethics in Contemporary Context of Scientific Communities in Japan(福士珠美) 全体討論(白波瀬丈一郎、波平恵美子、北中淳子、宮坂敬造)の順で慶大、東大、お茶の水女子大等の研究者が発表・討論をおこなった。参加者は90名程度だが、主要な若手や重鎮の研究者が参加し、活発な学会となった。終了後、社会学研究科委員長杉浦章介教授主催による懇親会が開催され、ヤング教授以下が拠点リーダー渡辺茂教授等と交流した。(宮坂敬造)

Keio-Cambridge Joint Seminar 報告(2007年8月12日 於: Cambridge 大学 Downing カレッジ)



去る8月12日に Cambridge 大学 Downing カレッジにて、Keio-Cambridge Joint Seminar が行われた。本拠点と同大学比較認知研究室から大学院生が各4名が参加し、日頃の研究成果についての発表と議論を行った。参加教員は、Trevor Robbins、

Anthony Dickinson、Nicky Clayton、Nathan Emery、伊澤栄一であった。各院生には、それぞれ約1時間の持ち時間が与えられた。とかくピアノの発表会になりがちな学会発表とは異なり、データ発表にとどまらず、関連研究

のレヴューと今後の展望まで含めた研究の位置づけを明瞭にメッセージとして構成し、関連研究の第一線で活躍する同大の教員陣の前に、発表することが要求された。院生達は、その準備に相当な労力を要したが、それが十分に伝わり、ケンブリッジ側の院生、教員から、率直なコメントが院生たちに直接投げかけられた。休憩時間には、次第に院生達も半ば開き直ったのか(!)、質問や実験そのものの相談など積極的なコミュニケーションを図る姿勢が大変印象的であった。2日目午後に行われたラウンドテーブルでは、与えられたテーマと各自の研究をいかに結びつけて発言するかという点で、まだまだ力不足は垣間見えたものの、それらも含め、大変有意義な2日間であった。

(伊澤栄一)